



万博会場ほどもある広大な敷地の中の自宅から診療所まで歩いて十五分ほど。そのわずかな出勤時間にもキジが鳴き、ウグイスのさえずりが聞こえ、春の訪れを実感する。大都市大阪にもそんな田舎があり、医療を必要とする人たちがいます。

一九八二年に五期生として自治医大を卒業した私は、二年間の初期臨床研修が終わろうとするころ、大阪府出身の自治医大卒業生の進路相談を担当されていた張知夫先生(自治医大客員教授)にこう申し渡されました。「金剛コロニーに医者が足りないのです、君に行ってみてもらおうと思います」

自治医大卒業生として初めて

# 知的障害と向き合い20年

コロニーに赴任して以後、私はと向き合ってきたことになり、足かけ二十年間、知的障害児者です。

一般の臨床医が仕事をしていた知的障害児者に遭遇すること

は、小児科・精神科を除けば、あまり多くありません。したがって、私も赴任当初は戸惑ってばかりいました。

## 7割が身体合併症

診療では正確な問診というのが最も大切ですが、彼らの言っていることがサツパリ分かりません。重度の知的障害だと全く何も言わない。また、処置を嫌がったり怖がりたりして、指示に従ってくれない人も多いのです。

試行錯誤したあげく、医療従事者が、彼らに波長を合わせるしかないと思えるのに、それほど時間ばかりませんでした。知的障害者には身体疾患を併せ持つ人が多い。コロニーでも入所者の約七割は何らかの身体合併症で治療や経過観察を必要としています。この事実は一

## 大きく変わる福祉

にほとんど知られておらず、障害福祉担当の自治体職員の中にも認識不足の人がいてガツガリさせられることがあります。



右手が大阪で一番高い金剛山。左端中ほどの建物は診療所。手前の建物群が入所者の寮

## 金剛コロニー付属診療所

【私の勤務地】金剛コロニーは大阪府南東部の富田林市に位置し、1970年に金剛山ふもとの丘陵地に開設された知的障害児者のための大規模総合援護施設。施設では10歳前後から80歳までの知的障害児者800余名が生活している。彼らの健康管理が付属診療所の主な業務。

沿って大きく変わろうとしています。来春、同じ敷地内に重症心身障害児者対象の病院が新設され、今までの業務はそこに引き継がれ、診療所は閉院します。私は、この機会にコロニーでの二十年間をゆっくり振り返ってみようと思っています。

コロニーもこの時代の流れに沿って大きく変わろうとしています。来春、同じ敷地内に重症心身障害児者対象の病院が新設され、今までの業務はそこに引き継がれ、診療所は閉院します。私は、この機会にコロニーでの二十年間をゆっくり振り返ってみようと思っています。

(次回予定は愛知県)